

知事随想



広島県知事

湯崎英彦

県民の力とイノベーションで 広島未来づくりに挑戦！ 「ひろしま未来チャレンジビジョン」を策定

本年十月、「ひろしま未来チャレンジビジョン」県民の力とイノベーションで未来をつくる」を策定した。

今年度は、私の県政の実質的なスタートの年として、新たな挑戦のための仕込みと基盤づくりの年と位置付けている。この「ひろしま未来チャレンジビジョン」は、その基本となるものであり、今後おおむね十年後を展望し、本県の目指す姿と、これを実現するための取組の方向や戦略などを明らかにしたものである。

広島県は、風光明媚な瀬戸内海やなだらかな中国山地など豊かな自然に恵まれ、古くからの交通・流通の要衝、産業の拠点、文化・教育の中心地としての道を歩んできた。

しかし、現在、人口減少・少子高齢化、経済分野を始めとするグローバル化の進展など、大きな変化が静かにかつ着実に進行しており、過疎化の進行、医師の地域偏在や特定診療科における医師不足、教育の再生などの難しい課題も深刻さを増している。

私は、過去の成功体験に満足することなく、未来に進んでいかなければならないと考えている。広島県が直面しているこれらの課題は、答えが簡単に見つかるというものではないが、変革は続けていかなければならない。

人口減少と高齢化については、全国平均を上回る速度で進んでおり、今後二十年で、生産年齢人口は、現在の百八十二万人から百四十四万人と、二〇・八%もの減少が見込まれている。労働力人口の減少とともに、広島県全体の経済規模が大きく落ち込み、その結果、様々な社会インフラを維持することも大きな困難に直面するのではないかと危惧している。

人口減少や高齢化という課題は、随分前から言われてきたことであるが、今、それが現実急速に進んでいくという時代の入口、転換点に、我々が立っているところである。そうし

た時代の転換点にあるからこそ、広島県が持っている本来の力、「強み」をしつかりと引き出し、活用して、新しい活力をいろいろな分野で生んでいかなければならない。

また、こうした時代にあつて、県庁だけ、ないしは私一人が動いて、何か変化が起きるものではない。本当に広島県が変化をし、動いていくためには、県民（個人や企業、団体といった広い意味での県民）の皆様に、動いていただかなければならないわけで、県としてはそうした問題意識を持つて挑戦されている方々を応援し、一緒に新しい視点を切り開くことに取り組んで参りたい。

そこで、「ひろしま未来チャレンジビジョン」では、前述の現状認識の上に立ち、今後十年程度を見通した広島県の目指す姿を示すこととした。県庁はもちろん、広い意味での県民の皆様と、このビジョンの実現に向かって走っていききたい。

このビジョンの実現を図るため、「人づくり」「新たな経済成長」「安心な暮らしづくり」「豊かな地域づくり」の、四つの「挑戦」を行うこととしている。「挑戦」とは、県民の一人ひとりが、リスクがあつても、失敗を恐れず、果敢に改革に取り組むことであり、これらの「挑戦」を具体化し推進するに当たっては、次の五つの視点を持つて取り組んでいききたいと考えている。

- ・ 本県が有する様々な「強み」を生かして活力を創出する。
- ・ 様々な分野において、新しいアイデアで、モノや情報、仕組みなどを組み合わせ、新たな価値を創造する「イノベーション」を起こす。
- ・ 今後一層進展することが見込まれる「グローバル化」に的確に対応していく。
- ・ 新たな時代を切り開く主体は県民であるとの認識に立ち、自ら問題意識を持つて挑戦しようとする人々たちを応援することで「県民主体」の広島県づくりを行う。
- ・ 市町及び近隣県との「連携」により、地域・圏域全体の活性化を推進する。

このビジョンを県民の皆様と共に推し進めることにより、これからの広島県がもう一度力を出し、発展して、我々が今享受している豊かな暮らしを、広島県において次世代につなげていきたい。そして、将来にわたつて、『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県を実現していきたいと考えている。

